

3月は自殺対策強化月間です

自殺は、若年層の主な死因を占めるなど深刻な社会問題になっています。鳥取県では平成20年以降、年々減少傾向にありましたが、平成29年は前年より微増の91人の方が自殺により亡くなっています。

3月から4月は卒業や進学、就職や退職など、生活環境が大きく変わり、ストレスや不安を抱えやすい時期でもあります。周りにいつもと様子が違う人はいませんか？悩んでいる人の孤立を防ぎ、かけがえのない命を守りましょう。



【心の相談窓口】

鳥取県立精神保健福祉センター

☎0857・21・3031

西部総合事務所福祉保健局

☎0859・31・9310

鳥取いのちの電話

☎0857・21・4343

◆問い合わせ先

健康対策課

☎0859・54・5206

大切な人の命を守るためにできること

《気づき・傾聴》

- 家族や仲間の発言・行動・体調の変化に気づき、声をかけましょう。
- 話をしてくれたら、相手の気持ちを尊重しながら耳を傾けましょう。

《つなぐ》

- 相談を受けたら、早めに専門家に相談するように促しましょう。
- 相談を受けた側も、一人で抱え込まず、家族、友人、上司などに協力を求め、連携をとりましょう。

《見守り》

- 身体や心の健康状態に配慮し、焦らず、優しく寄り添いながら見守りましょう。
- 必要に応じて家族と連携をとって、主治医に情報提供しましょう。

町長の『余白に書かせて!』



とっとりジビエフェス

県内各地のジビエ料理が集うイベント「とっとりジビエフェス」が、2月5日に開催されました。昨年2月には県中西部に「ほうきのジビエ推進協議会」が立ち上がり、さらに今年も今年度という年もあつて、県内でもジビエ活用の注目度は高まりつつあります。

主催者によりますと、3回目となるこのジビエフェスは、過去2回では百数十人だった参加者が、今回は倍以上の300人を超える参加があったそう、会場内を移動するのも窮屈に感じるほど混み合っていました。

町内でも、近年イノシシ等の農作物被害が増えていて、猟友会の皆さんを中心として捕獲に尽力いただいています。なかなかイノシシ等の個

体数は減りません。さらには、猟師のなり手不足という課題もありますので、町では、「大山ジビエ工房」というイノシシ等専用の解体処理施設を昨年完成させました。地域資源であるジビエの有効活用によって、猟師の所得増と負担軽減につなげることで、有害鳥獣の捕獲ができる人を増やしていきたいと考えています。

適切に処理されてうまく調理されたジビエ料理は、臭みもクセもなく美味しいものだと今回改めて感じました。ジビエ肉に良いイメージがない方も多いとは思いますが、目にする機会があれば、ぜひとも食べていただき応援をお願いします。

(文責・町長 竹口大紀)

